



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年7月3日発行 第27号

梅雨も中・後半になると心配なのが豪雨災害です。ここ近年は毎年のように災害が発生し、地球環境の悪化がますます深まってきているようです。出雲市出身の俳人“原石鼎”（はらせきてい）の梅雨の句に「大鯉の 押し泳ぎけり 梅雨の水」というのがあります。現代語訳で「大きな鯉が梅雨の雨が降る中を押し泳いでいるよ」という意味ですが、しとしとと降る小雨の中を鯉が悠然と泳ぐ様が想像できます。このような梅雨の風情はもう昔の話となりつつあるのでしょいか…。さながら「大鯉の 濁流を押し グリラ豪雨」とでも言い換えなければ現代の描写とならないのかもしれない…。このような環境にしたのは、勿論人間の責任であることは言うまでもありません…。

◎ 様々な課題を乗り越えて…！

本アカデミー本科の全講座と別科のオーケストラレパートリー及びアクティングクワイア、邦楽合奏においては、6月から試行期間として各講座ごとにコロナ感染対策を十分に考慮しながら開始したところです。

本科の音楽入門やジュニアコーラスでは、基本的な楽譜の読み方などの座学から始まり、発声についてはハミング程度の音取りが中心です。その後、発声はどうしても飛沫が気になりますので、各自でフェイスシールドを作成し、徐々に声を出すことの不安感を払拭するなど工夫をした取り組みを行いました。フェイスシールドを付けることにより、骨伝導で自分の声がよく聞こえるなどの効果もあり、意外な発見にもつながりました。

オーケストラコースは、弦楽器、打楽器、木管、金管に分かれ、それぞれに個人レッスン中心の講座として開講しています。弦楽器と打楽器はマスクを着用しても演奏が可能ですが、管楽器はそうはいきません。講師と受講生の間にビニールシートを取り付け、予防対策に余念がありません。このように試行期間中において特に問題がないと判断し、7月から本格的に開講することになりました。しかし、コロナ禍は完全終息したわけではありませんので、三密やソーシャルディスタンスを考慮するなど、感染対策に気を配りながら実施していきたいと思ひます。

幼児科と別科のコーラスレパートリーについては、7月から試行期間に入り、完全実施に向けて準備を進める方針です。

幼児科は、6月に講師陣が集まり動画を作成しユーチューブに配信されました。開講前の心の準備をいただいているところです。また、本アカデミー全受講生向けに、中井芸術監督からもタイムリー



に動画配信があり、有名作曲家の逸話なども紹介され、楽しく拝聴しました。コーヒー豆の60粒はすぐに実践し、丁度よいバランスの良さに驚いたところです…。

世間から公演事業が消えて数か月、生演奏の公演の見通しが見出せない状況下です。そのような時、ふと朝食をとりながらNHKテレビ「おはよう日本」を観ていると、オーケストラ演奏会再開へ向けてというタイトルで「東京都交響楽団」（都響）の取り組みの様子が紹介されていました。都響の芸術監督を中心に大学教授や医師などからなる専門家による検証が実際にホールを使用し、再開に向けて試演する様子にとっても励まされました。このような前向きな取り組みは、とても参考になると思い、早速都響のホームページを開いてみました。ありました！「演奏会再開への行程表と指針」として20ページにわたる資料を見つけました。詳細な検証結果が掲載されており、本アカデミーでも参考になるところは活用させていただき、公演再開に向けてとても勇気づけられました。



つぶやき

昨今の我が国の政治経済は、コロナ禍の影響により混迷の枠を超え、右往左往している様子がとても気になります。一番の心配事は、国債発行を毎年のように続け、現在では約900兆円の借金があるとか…。この度のコロナ対策では新規国債発行に空前絶後の90兆円だとか…。ある国会議員はいくら国債を発行しても国家が潰れることはないと楽観視している発言が聞かれます。これには、我が国の消費税は国際的にみても安く、今後消費増税が見込まれる期待感から収まっているとの某新聞社の社説で読んだことがあります。普通感覚では、借金は返すのが当然のことですが、これを踏み倒している国家が恐ろしくてなりません…。この背景には、国民も予算を削られることは良しとしない傾向にありますので、必ずしも政府ばかりに責任があるとは言えないのかもしれませんが、しかし、負担増は不人気政策につながりますが、それでも言わなければならぬと腹をくくる政治家がいかに少ないことが気になります。

そこで、今後の経済成長には人材育成が欠かせないと思います…。我が国の経済状況は、かつては世界のトップ企業20社の中に日本企業が14社ありました。世界1位はNTTです。現在はトヨタの36位が最高位となっています。世界のトップクラスはグーグルやアマゾンです。これらの創業者はいわゆるベンチャー企業の創業であり、若くしてしかも異端児的な要素の持ち主が多いということです。このような人材を育成するには、根本的な教育システムの改革が必要と思われます。「自分の意見が言えるか」「問題点を自ら考え解決できるか」「既成事実にとらわれずに新しいことに取り組む意欲があるか」等々、自分という個性を発揮することのできる教育が今後の日本経済にも大きく影響するのではないかと思っているところです。若者はやりたいことにチャレンジする勇気を持ってほしいと願います…。